



北海道文学のさきがけ、「本庄陸男」を語る

10月23日 白樺コミュニティセンター

道内や当別町にゆかりの作家の文学作品に親しみ、地域の風土、歴史、文化について学ぼうと「当別文芸セミナー」が開催され、当別文芸の会ほか一般町民35名が参加しました。

講演会では、北海道立文学館名誉館長の木原直彦氏により、本町出身の小説家、本庄陸男が「石狩川」を執筆中、当時の特別高等警察に追われながらも、当別で膨大な取材を行っていたエピソードや、この小説が北海道文学に果たした役割がどれ程大きいかが紹介されました。



文化祭での郷土芸能と菊花展

10月30日 白樺コミュニティセンター

第61回当別町文化祭が開催されました。今年は10月29日から31日までの間と11月3日の開催で、発表部門34団体、展示部門では29団体4個人から800点もの参加がありました。

本号表紙の太美獅郷太鼓^{しきょうだいこ}は結成されて7年目、今回は女性13人で和太鼓を演奏。その姿は勇壮で古くて新しい文化が伝承されている感じを受けました。

ふれあい倉庫の菊花展では、104点の丹精を込めて育てられた菊が所狭しと並べられ、当別町長賞には太美町の浦田清一さんの作品が選ばれました。



驚きと笑い！エゾサリヴァンショー

11月6日 大成寺

道内を中心に活躍している芸人を集め、当別から芸能を発信しようと、昨年につき「第4回エゾサリヴァンショー」が町内のお寺で開催されました。

町内在住のフォークソングライター柳田誠一郎さんや、マジシャン「アルバトロスデンカ」こと高橋明仁さんをはじめ、マジックやピエロのバルーンショー、コミカルなトークとバンド演奏が披露されました。お金が増えるマジックでは、会場から「自分の財布の中身も増やして！」の声が出るなど、会場の笑いを誘いました。